

家庭科 授業改善推進プラン

学年	児童の実態
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい教科に関心をもち、意欲的に取り組む児童が多い。また、学んだことを家庭で実践しようとしている。 ・生活経験及び技能面での個人差が大きい。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を伴った実践的学習には、積極的に取り組む児童が多いが、学習活動や生活全般において、受け身で消極的な児童も見られる。 ・家族が健康で気持ち良く生活するために、生活時間の使い方を考え、実践できるようにしていくことが課題である。

☆今年度の教科の重点

<5年生>

○生活を見つめ、できることを増やしていくようにする。家庭生活を大切にする心情を育み、日常生活に必用な基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指すようにする。

<6年生>

○くふうして生活に生かしていくようにする。衣食住などに関する知識と技能を身に付け、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育て、よりよい生活者を目指すようにする。

☆授業改善の具体例

<5・6年生共通>

- ・自分の身近な生活に目を向けさせ、家庭での取材や調査・実践を通して、家族の一員である自分にできることを具体的に考える力を養う。
- ・考えを深め広げるために学び合いの場を設定する。自分の考えをしっかりともち、考えを交流させることを通して学習の充実を図る。
- ・学習したことをノートやワークシートにきちんと記録しまとめさせ、振り返らせる。
- ・個人差に配慮した指導法を工夫する。
- ・既習学習との関連・中学校との関連を意識し、A 家族・家庭生活 B 衣食住の生活 C 消費生活・環境 の3つに整理された同一内容の系統性や連続性を考えて指導にあたる。

☆評価・改善

<5年生>

- ・エプロン作りを通して、縫い物の実践的な理解ができ、日常生活に必要な知識・技能を身に付けることができた。
- ・学んだことを実際に生かしたり、普段から取り組んだりする機会が異なるため、技能面での個人差がさらに広がりつつある。自主的に活動できるよう指導の工夫が必要である。

<6年生>

- ・トートバック作りを通して、手縫いやミシンの活用の実践的な理解ができ、日常生活に必要な知識・技能を身に付けることができた。